

住宅における電気火災を防ごう



大垣消防組合

電気は、私たちの暮らしを明るくするも、誤った使い方をするとう火災になる危険があります。電気の正しい使い方、火災事例を知って、電気火災を防ぎましょう。

主な電気火災と対策

リチウムイオン蓄電池

リチウムイオン蓄電池とは…

スマートフォンやモバイルバッテリーのように繰り返し使える充電式電池です。

衝撃・加熱・過充電など

- ・洗面所などで水に水没させた場合、内部に水が入り、通電時に出火。
- ・落下など大きな衝撃が加わり、電池内部の損傷により出火。
- ・暖房器具の熱により暖められ、内部に熱がこもり出火。
- ・充電器を間違え、許容電圧以上で充電し出火。



【対策】

- ・破損や電池が膨らむなどの異常がある場合は使用しないようにしましょう。
- ・熱くなる場所に放置しないようにしましょう。
- ・充電器は電気製品に付属しているものであるか確認しましょう。
- ・PSEマークが表示されている製品か確認しましょう。



電源コード・プラグ

たこ足配線（過電流）

たこ足配線により、電気製品を接続し使用したため、定格容量以上の電流が流れ、発熱し出火。

例) ドライヤー (1200W) と電気ストーブ (800W) を同時に使用した場合
 $2000W > 1500W$ (定格容量以上)



【対策】

テーブルタップ（延長コード）やコンセントは、定格容量（一般的には15A・1500W）が決まっています。電気製品の消費電力やテーブルタップの許容電流を確認して、定格容量内で使用しましょう。

踏みつけ・折れ・ひっぱり（半断線）

- ・電源コードの上に本棚などの重い家具が載っていたため、部分的に断線し出火。
- ・コンセントから電源コードをひっぱり抜きを繰り返し、断線し出火。



プラグのX線画像



断線箇所

【対策】

- ・電源コードに重いものが踏まれてないか、挟まれてないか確認しましょう。
- ・電源コードは引っ張らないで、プラグ部分を持ってコンセントから抜きましょう。

束ね配線	【対策】
電源コードを束ねたまま使用したため、電源コードの熱がこもり出火。	電源コードは束ねず、伸ばして使用しましょう。
トラッキング	【対策】
プラグにホコリや湿気がたまった状態で放置し出火。 トラッキング現象とは… 長期間、プラグを差し込んだまましていると、そこにほこりや湿気などが付着し、小さな火花放電が繰り返され、プラグやコンセントのプラスチック部分（絶縁物）が炭化し、そこに電気の通り道（トラック）ができて大電流が流れ出火する恐れがあります。	・プラグは乾いた布などで定期的に清掃をしましょう。（テレビ台の裏などのプラグは一度差すと、差したままなので忘れずに！） ・使用していないプラグはコンセントから抜きましょう。（電気製品を使用していなくてもトラッキング現象は起きます。） ・水槽などの水がかかったり、湿気がついたりしないようにしましょう。
差し込み不足（接触部過熱）	【対策】
プラグが完全に差し込まれていない状態で使用し、電気抵抗が増えて出火。	・プラグはしっかりコンセントに差し込みましょう。 ・プラグを差し込んで、ぐらつくコンセントは使用しないで、電気専門業者に見てもらいましょう。
ショート（短絡）	【対策】
配線の劣化により、配線の両極（+と-）が電気的に結ばれて（ショート）出火。 配線の劣化とは… 熱劣化（過電流などで配線の許容温度以上の高温状態が続き劣化）、外部からの影響（折れ、傷など）、経年劣化（長年の使用で劣化）	配線が古くなったり、傷ついたり、劣化して固くなっている場合は、新しいものに交換しましょう。

電子レンジ

誤使用など	【対策】
・電子レンジで加熱できないレトルト食品のアルミ製の袋ごとに入れて出火。 ・さつまいもを加熱した際、加熱時間が長すぎたため出火。 ・電子レンジ内の清掃不足により油污れで出火。	・取扱い説明書やレトルト食品に記載がある注意事項を確認し、長時間の加熱に気を付けましょう。 ・温めるものに金属製のものがないか確認しましょう。 ・こまめな清掃を行いましょう。